

ドイツとヴィシエグラード諸国との経済関係

佐々木 昇

はじめに

1990年代末から2000年代前半までに、ドイツの経済成長率はEU諸国のなかで最低であり、失業率もEUのなかで最も高く、西ドイツ時代を含む戦後のドイツの歴史で最大の500万人の失業者数を記録した。この期間、ドイツは「欧州の病人」と呼ばれた。しかし、その後のドイツの経済状況は回復に向かい、2008年には失業者数は300万人に減少し、大幅な貿易黒字を累積し、ユーロ危機の時ですえドイツの経済的強さは失われなかった⁽¹⁾。

このドイツの経済的復活を生み出した要因として挙げられるのは、2000年代前半に行なわれた一連の労働市場改革、いわゆる「ハルツ改革」である。この「ハルツ改革」は、西ドイツ時代から受け継がれたが、東西ドイツの統一後後に対応できなくなった失業保険制度の改革と、それと密接に結びついた労働市場の改革であった⁽²⁾。この改革がドイツ経済の復活に寄与したといわれる。しかし、ドイツ経済の復活にはもう一つの要因が考えられるのである。それがドイツの貿易収支黒字を生み出している強力な輸出競争力であり、そしてそれを支える力となっているのが、中東欧との密接な貿易関係とそれに関わっている直接投資である。

本稿では、ドイツが中東欧諸国、とくヴィシエグラード諸国⁽³⁾との間で形成している貿易と投資の関係を考察して、ドイツの輸出競争力の実態について考えてみたい。そのために、まずドイツと中東諸国との経済関係を歴史的

に概観し、その後、中東欧諸国のなかでも特にドイツと密接な関係にあるヴィシエグラード諸国を中心に、その貿易関係と直接投資の状況を考察し、最後に、ドイツとヴィシエグラード諸国との間に形成されている生産ネットワークについて検討する。

第1章 ドイツと中東欧諸国との経済関係の進展過程

1. 東方政策と1980年代までの過程

地理的に隣接していることもありドイツが中東欧諸国と密接な経済関係を築いたのは19世紀後半に遡る。1870年代から1880年代に工業化が進んだドイツは、近隣の中東欧諸国の主要な貿易相手国となり、そこへ設備財や投資財を供給した。大戦間期の1920年代から1930年代には、中東欧諸国経済と密接に結びつき、マルク経済圏を形成したのである。

しかし、第二次世界大戦のドイツの敗北とその後の東西冷戦の対立激化によって、ドイツ（当時西ドイツ）の戦前まであった中東欧諸国との経済関係のほとんどが断ち切られた。ドイツが急速な戦後復興を遂げた後、再び中東欧諸国との経済的関係を構築し始めたのは、1970年代のウィリー・ブランド政権による東方政策（Ostpolitik）からであった。ブランド政権は、ドイツと東欧諸国との関係正常化を掲げて、1970年にモスクワおよびワルシャワ条約を結び、72年には旧東ドイツと基本条約を、そして73年にはプラハ条約を結び、これら諸国と国交を回復した。こうした東方政策の目的のひとつは東西の貿易と投資を推し進めることであった。この東方政策に基づく最初の動きは、ドイツへ天然ガスパイプラインを引くためのソ連とドイツ鉄鋼業およびドイツの銀行グループの1970年の3者間取引であった。また1971年の第2のプロジェクトは、メルセデス・ベンツがソ連への直接投資と技術協力によってKama River工場でトラックの生産を開始したことであった。こうし

て1970年代を通じてブランドの東方政策は、西ドイツの企業と銀行がソ連や東ヨーロッパへ進出する道を開いた。1975年には西ドイツは、ポーランド、チェコスロバキア、そしてハンガリーと、西ドイツ企業と東側の国営企業が合弁事業を推進するための産業・技術協定を結んだ。これは東欧諸国の慢性的な貿易赤字を解消するための支援であったが、またドイツにとっては同時に将来の東欧諸国への輸出拡大をにらんだものでもあった⁽⁴⁾。

1970年代は、東欧諸国にとっても経済の停滞とそれを打開するための改革の時期に当たっていた。外国貿易への利潤動機の導入や西欧諸国との貿易規制の緩和が行われ、ハンガリー、ポーランド、チェコスロバキアでは、外国貿易の国家独占が緩和され、個別企業がドイツや西側と独自の貿易を行うことが許可された。こうしてドイツの東方政策と東側諸国の経済改革が相まって西ドイツ企業が東側諸国に投資することが徐々に可能になっていった。1968年から1978年までにドイツとポーランド、ハンガリー、チェコスロバキアとの貿易は4倍近く増加し、1990年代までにはさらにその増加テンポは拡大した⁽⁵⁾。

2. 東側体制の崩壊以後の過程と OPT

1980年代末以降の東側体制の崩壊は、ドイツと中東欧諸国との関係を質的に変えた。1990年代におけるポーランド、ハンガリー、チェコスロバキアの市場経済への移行にともなって、ドイツのこの地域への投資がさらに増大した。こうして2000年代初めまでに、ドイツ企業は東欧諸国の企業や労働者とその生産連鎖のなかに組み入れていったのである。

1980年代から1990年代始めまでは、ドイツの投資は中東欧諸国の市場経済への移行に伴う国有企業の民営化への投資が中心で、主にエネルギー、通信・運輸部門へ向けられた。1990年代末になってドイツの投資は徐々に製造業に向かうようになった。2000年までにドイツはヴィシエグラード諸国と

の間で最大の貿易相手国となった。これはドイツ企業によるヴィシエグラード諸国における下請供給の取引関係が生み出され、それが両者間の貿易の拡大につながっていったからである。

ヴィシエグラード諸国が、1990年代にドイツのサプライチェーンに本格的に組み込まれたのは、EUがOPT（outward processing traffic - 加工再輸入減税制度）の制度を東ヨーロッパに広げてからであった。OPTは、EU企業が、再輸入を前提にして原材料や中間財をEUの域外諸国へ輸出した場合、そこで加工された製品を再輸入する際に、その製品に含まれる当該のEU加盟国から輸出された原材料・中間財に相当する部分の割合が、EUの対外共通関税の適用から免除される制度である⁽⁶⁾。

このEUのOPTは二つの側面があることが指摘されている。一つは、OPTが西ヨーロッパ諸国と中東欧諸国の経済的な相互依存関係を強化する推進力になったこと。第二は、このOPT取引のなかで特にドイツが圧倒的な比重を占めたことである。このOPTの1996年の実績をみると、OPTによる輸出は、中東欧諸国のEU向け輸出の約13%を占めた。中東欧諸国を個別にみると、この割合が最も大きかったのはポーランドの43%、これに次いでハンガリーの26%、チェコの24%となっている。スロバキアは約8%で、比較的この比重は小さい。また品目別では繊維・衣料品の輸出（約30億ECU）が最も大きな比重を占め、次いで電気機器（6億ECU）、さらに一般機械、家具、履き物などとなっている。ポーランドでは、EU向け輸出のうちOPTによる繊維・衣料品輸出が8割以上を占め、ハンガリーでも約73%、またチェコで50%を占めた。またハンガリーやチェコでは電気機器や一般機械の比重が大きかった。他方、EU側からみると、1996年の上記中東欧4ヶ国のOPTによるEU向け輸出額は43.4億ECUであったが、このうちドイツ向けが29.6億ECUで、全体の約7割を占めた。これに次いだのはオーストリアの3.2億ECU、イタリアの2.9億ECU、オランダの2.8億ECUであり、ドイツの圧倒

的な大きさが示されている⁽⁷⁾。

この OPT によって中東欧諸国の貿易は拡大していったが、他方で EU の制度に規定されるかぎり中東欧諸国の EU 諸国とりわけドイツへの依存度は深まっていったといえる。上記のように OPT は、ドイツを中心にした西ヨーロッパ企業が、安い労働コストを利用するために中東欧諸国へ進出する手段のひとつであった。OPT 取引は、直接投資による資本関係のない現地の生産委託企業との間でも可能であり、下請け供給関係を通じて中東欧諸国がドイツ企業を中心に西側企業の生産ネットワークに組み込まれていったといえる。この点でこの OPT は、アメリカへの輸出を前提にメキシコ側に創られた保税加工区であるマキラドーラと類似の性格を持っていると考えられている⁽⁸⁾。

しかしこの EU の OPT は、徐々にその重要性は減少していき、EU とりわけドイツからの中東欧諸国の製造業への直接投資が増加するにともなって OPT によらない貿易取引が拡大していった。そして中東欧諸国の EU 加盟によって、再輸入にともなう共通関税を回避するという OPT の目的もその意義を失ったといえるのである⁽⁹⁾。

第2章 ドイツとヴィシエグラード諸国との貿易関係

それでは、このように発展してきたドイツとヴィシエグラード諸国との貿易関係についてより詳しく見ていこう。

2017年のドイツの対ヴィシエグラード諸国輸出額は、第1表のように約1,400億ユーロで、この年の輸出総額1兆2,790億ユーロに占める割合は10.9%であった。2008 - 2017年の10年間に輸出額は1.3倍に増加したが、対ヴィシエグラード諸国輸出は、それを上回る約1.5倍に増加した。ヴィシエグラード諸国のなかで最大の輸出先はポーランドで総額に占める割合は

第1表 ドイツのヴィシエグラード諸国との貿易

	輸 出				輸 入				取 支	
	2008	2017	2008	2017	2008	2017	2008	2017	2008	2017
	10 億ユーロ		%		10 億ユーロ		%		10 億ユーロ	
ポーランド	40.8	59.0	4.1	4.6	25.9	50.5	3.2	4.9	14.9	8.5
チェコ	27.6	41.7	2.8	3.3	27.5	45.7	3.4	4.4	0.1	- 4.0
スロバキア	8.7	13.2	0.9	1.0	8.5	14.7	1.1	1.4	0.2	- 1.5
ハンガリー	17.4	25.0	1.8	2.0	16.8	26.4	2.1	2.6	0.6	- 1.4
V4	94.5	138.9	9.6	10.9	78.7	137.3	9.8	13.3	15.8	1.6

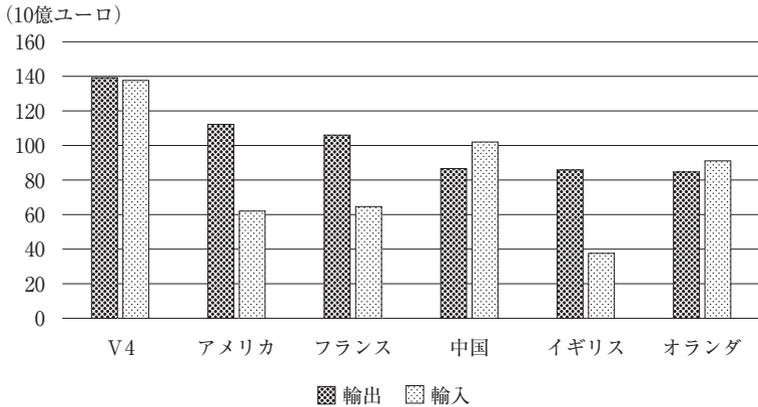
注) V4 は、ヴィシエグラード4カ国。

出所) Statistisches Bundesamt, *Zusammenfassende Übersichten für den Außenhandel-endgültige Jahresergebnisse 2008 & 2017*.

4.6%, 続いてチェコの3.3%であり, 以下ハンガリーとスロバキアの順になるが, これはほぼ各国の経済規模に対応している。またドイツの対ヴィシエグラード諸国輸入額は約1,370億ユーロで, 同年の輸入総額1兆310億ユーロの13.3%を占めた。同じ10年間に輸入総額が1.3倍増加したのに対して対ヴィシエグラード諸国輸入は約1.7倍も増加した。ヴィシエグラード諸国の輸入の内訳でも対ポーランド輸入が最大で, 以下チェコ, ハンガリーとなる。ドイツの対ヴィシエグラード諸国貿易では, 輸出に比べて輸入への依存度が高いことがわかるが, このことは貿易収支に現れている。2017年の対ヴィシエグラード諸国貿易収支は, 全体で16億ユーロの黒字になっているが, これは対ポーランド貿易の黒字によるものであり, ポーランド以外の国では赤字を記録している。また対ポーランド貿易黒字も2008年に比べて大幅に減っているため, ヴィシエグラード諸国全体でもわずかな黒字になっているのである。

ドイツにとってヴィシエグラード諸国の個々の国をとれば貿易相手としての規模は大きくないが, これをまとめた地域とみれば, 国別に見たドイツの主要貿易相手国の規模を上回る。第1図はドイツの貿易相手上位5ヶ国とヴィシエグラード諸国貿易を比較したものである。ドイツの上位輸出相手国

第1図 ドイツの貿易相手上位5カ国とヴィシエグラード諸国（2017年）



出所) Statistisches Bundesamt, *Zusammenfassende Übersichten für den Außenhandel-endgültige Jahresergebnisse 2017*.

は、アメリカが最大で、以下フランス、中国、イギリスの順になるが、ヴィシエグラード諸国輸出額は最大のアメリカ向け輸出を270億ユーロ上回っている。また輸入の上位国は、中国、オランダ、フランス、アメリカの順になり、ここでもやはり最大の輸入国中国の輸入額をヴィシエグラード諸国輸入額が上回っている。このようにヴィシエグラード諸国をひとつのまとめたものとみれば、ドイツにとっては量的な関係としても非常に重要な貿易相手であるといえるのである。

ヴィシエグラード諸国の貿易相手としてのドイツをみれば、第2表のように2017年のヴィシエグラード諸国全体の輸出に占めるドイツの割合は28%であり、輸入でもドイツの輸入は27%を占めた。ドイツ向け輸出の比重が最も大きいのはチェコの33%で、これに次ぐのがハンガリーとポーランドのそれぞれ28%であった。輸入でもチェコの割合が高く30%を占め、これにポーランドの28%とハンガリーの26%が続く。ヴィシエグラード諸国にとってドイツは最大の貿易相手国であるが、2017年を2008年と比べると、対独輸

第2表 ヴィシエグラード諸国の対独貿易

	総輸出		対独輸出		対独輸出の割合		総輸入		対独輸入		対独輸入の割合	
	2008	2017	2008	2017	2008	2017	2008	2017	2008	2017	2008	2017
	10億ドル				%		10億ドル				%	
ポーランド	171.1	234.4	42.8	64.4	25.0	27.5	209.4	233.8	59.9	65.5	28.6	28.0
チェコ	147.2	182.1	45.0	59.4	30.6	32.6	142.2	163.4	43.1	48.8	30.3	29.9
スロバキア	71.2	84.5	13.9	17.4	19.5	20.6	74.0	83.3	14.6	16.1	19.7	19.3
ハンガリー	108.8	113.8	28.9	31.8	26.6	27.9	109.2	107.5	27.8	28.2	25.5	26.2
V4 計	498.3	614.8	130.6	173.0	26.2	28.1	534.8	588.0	145.4	158.6	27.2	27.0

出所) IMF, *Direction of Trade Statistics*.

第3表 ドイツの対ヴィシエグラード諸国輸出の品目別構成 (2017年)

	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー
	100万ユーロ				%			
農林漁業品	826	294	77	146	1.4	0.7	0.6	0.6
鉱産物	155	362	228	38	0.3	0.9	1.7	0.2
食料・嗜好品	3,997	1,667	545	890	6.8	4.0	4.1	3.6
繊維・衣料・皮革	3,215	1,410	1,000	658	5.4	3.4	7.6	2.6
木・紙製品	2,194	960	204	340	3.7	2.3	1.5	1.4
石油製品	985	743	90	101	1.7	1.8	0.7	0.4
化学・薬品	7,700	4,436	1,063	2,105	13.1	10.6	8.0	8.4
ゴム・プラスチック・ガラス・陶磁器	4,022	2,800	861	1,560	6.8	6.7	6.5	6.3
金属製品	6,423	4,742	1,558	2,246	10.9	11.4	11.8	9.0
電気・電子機器	9,005	8,871	2,258	5,993	15.3	21.3	17.1	24.0
機械	6,962	5,962	1,597	4,446	11.8	14.3	12.1	17.8
自動車	7,468	6,053	2,912	4,412	12.7	14.5	22.0	17.7
その他輸送機械	720	286	59	882	1.2	0.7	0.4	3.5
その他製品	5,331	3,117	785	1,140	9.0	7.5	5.9	4.6
総計	59,004	41,704	13,236	24,958	100.0	100.0	100.0	100.0

出所) Statistisches Bundesamt, *Zusammenfassende Übersichten für den Außenhandel-endgültige Jahresergebnisse 2017*.

出の割合は増えている一方で、輸入割合はわずかであるが減少しており、少なくとも最近の傾向では対独輸入依存度は低下しているといえる。

次にドイツのヴィシエグラード諸国との貿易の品目別構成についてみてみよう。第3表のようにドイツのヴィシエグラード諸国向け輸出は、化学品と

第4表 ドイツの対ヴィシエグラード諸国輸入の品目別構成（2017年）

	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー
	100万ユーロ				%			
農林漁業品	1,110	792	85	440	2.2	1.7	0.6	1.7
鉱産物	240	121	93	15	0.5	0.3	0.6	0.1
食料・嗜好品	4,922	730	109	727	9.7	1.6	0.7	2.8
繊維・衣料・皮革	1,584	1,062	526	392	3.1	2.3	3.6	1.5
木・紙製品	2,193	916	254	181	4.3	2.0	1.7	0.7
石油製品	590	391	57	64	1.2	0.9	0.4	0.2
化学・薬品	3,062	1,783	393	1,066	6.1	3.9	2.7	4.0
ゴム・プラスチック・ガラス・陶磁器	3,613	2,600	904	1,563	7.1	5.7	6.1	5.9
金属製品	4,864	3,918	1,237	867	9.6	8.6	8.4	3.3
電気・電子機器	7,008	9,240	2,702	6,922	13.9	20.2	18.3	26.2
機械	3,986	5,737	1,873	2,815	7.9	12.5	12.7	10.7
自動車	7,089	11,268	5,259	8,612	14.0	24.6	35.7	32.6
その他輸送機械	641	343	114	554	1.3	0.8	0.8	2.1
その他製品	9,631	6,843	1,127	2,169	19.1	15.0	7.7	8.2
総計	50,533	45,745	14,732	26,386	100.0	100.0	100.0	100.0

出所）第3表に同じ。

金属・機械類が大きな比重を占める。ヴィシエグラード諸国のなかで最大の輸出先であるポーランドでは、電気・電子機器が最大で15%、これに次ぐのが化学品と自動車の13%であった。チェコでも電気・電子機器が最大で21%を占め、これに自動車の15%、機械の14%が続く。チェコとハンガリーはほぼ同じような構成で、最大の電気・電子機器が24%、自動車と機械がそれぞれ18%であった。また貿易規模が4カ国のなかで一番小さいスロバキアは、自動車が最大で22%、これに次ぐのが電気・電子機器の17%などとなっている。以上のように、化学品と金属製品および電機、自動車、機械の5品目の合計は、ポーランドで6割以上、チェコ、スロバキア、ハンガリーでは7割以上に達している。

次に輸入の構成を検討しよう。第4表のように、ドイツのヴィシエグラード諸国からの輸入品は、電気・電子機器、機械、および自動車に集中している。この3品目の比重が大きいのはハンガリーで、自動車が33%、電気・電

子機器が26%で3品目合計では輸入品全体の7割を占める。これに次ぐのがスロバキアで、自動車は36%、電気・電子機器が18%で、3品目の割合は67%であった。さらにチェコは自動車は25%、電気・電子機器が20%で、3品目の割合は57%を占めている。これに対してポーランドは、自動車と電気・電子機器がそれぞれ14%で、これに機械を加えた3品目の割合は36%にとどまっている。ポーランドからの輸入品で比較的大きな割合を占めるのは食料品であり、ポーランドが中東欧のなかでも農業の比重が大きく、その関連でドイツも食品の輸入が大きくなっているといえる。

ドイツとヴィシエグラード諸国との貿易では、輸出、輸入ともに電気・電子機器、機械、および自動車の3品目の比重が、ポーランド以外では5割から7割を占め、食料品の比重が比較的大きいポーランドでも約4割を占めており、機械類を中心にした産業内貿易が行なわれていることを示している。ドイツとヴィシエグラード諸国との貿易関係をより明白に示しているのが貿易収支である。第5表のように、ドイツの対ヴィシエグラード諸国貿易では、対チェコ、スロバキア、ハンガリー貿易では赤字であった。この赤字要因は、主に自動車製品貿易の赤字によるものであった。ドイツはチェコ、スロバキア、ハンガリーに対して大量の自動車製品を輸出しているが、同時にチェコ、スロバキア、ハンガリーからそれ以上の同製品を輸入していることを示している。自動車ほどの規模ではないが、電気・電子機器も同様に輸入が輸出を上回っている。自動車と電気・電子機器は、製品分類上区別されているが、特に最近の自動車産業では電子機器部品の比重が非常に大きいことを考えると、電気・電子機器製品には自動車関連の電子機器類が多く含まれているといえる。このように考えると、ドイツとヴィシエグラード諸国との貿易では自動車とその関連製品の取引が極めて大きな役割を果たしているし、またドイツはこうした製品のヴィシエグラード諸国からの輸入に依存している割合も大きいといえるのである。ヴィシエグラード諸国のなかで相対的に自動車

第5表 ドイツの対ヴィシエグラード諸国貿易収支（2017年）

（100万ユーロ）

	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー
農林漁業品	-284	-498	-9	-294
鉱産物	-85	241	135	23
食料・嗜好品	-925	937	435	163
繊維・衣料・皮革	1,631	348	475	267
木・紙製品	0	44	-50	159
石油製品	395	352	33	37
化学・薬品	4,638	2,653	670	1,039
ゴム・プラスチック・ガラス・陶磁器	410	201	-42	-3
金属製品	1,559	824	321	1,379
電気・電子機器	1,997	-370	-444	-929
機械	2,976	225	-277	1,632
自動車	379	-5,215	-2,347	-4,200
その他輸送機械	79	-58	-54	328
その他製品	-4,300	-3,726	-343	-1,029
総計	8,470	-4,040	-1,497	-1,427

出所）第3表に同じ。

関連貿易の割合が小さいポーランドとの貿易では、化学品、機械、電気・電子機器では大幅な黒字になっている一方で、農林漁業品、食料品では赤字であり、こうした分野ではポーランドからの輸入品に依存していることがわかる。

なお、ドイツとヴィシエグラード諸国との貿易を OPT 貿易との関連で考えると、中東欧諸国の EU への加盟とともに OPT 制度の意義は失われたけれども、ドイツ企業が労働集約的な製品を労働コストの安い中東欧で生産しようとする動機は存在し続けている。1990年代のドイツとヴィシエグラード諸国との OPT 貿易では、ポーランドとの貿易で繊維・衣料品、チェコとハンガリーとは電気・電子機器の比重が大きかったが、最近の状況では繊維・衣料品の比重が減って、電気・電子機器の比重がさらに大きくなり、また自動車でもヴィシエグラード諸国の低賃金を利用して、再輸入を目的とした中間財の輸出が行なわれていることが指摘されている。OECD のデータから推計

した分析によれば、ポーランドからドイツへの自動車部品輸出のうち49%は、自ら輸出するためにドイツ系自動車子会社によって輸入されたものであり、同様にチェコにとっての割合は32%、スロバキアは29%、ハンガリーでは21%であった。この状況は機械部品に関しても同じで、ポーランドからドイツへ輸出された部品の53%が再輸出されたものであったし、同様にスロバキアの場合は42%、チェコで32%、ハンガリーでも27%であった⁽¹⁰⁾。これらは明らかに中東欧の安価な労働を利用することを目的としたOPT制度の下で行なわれた貿易と同じ性格を持って、しかもドイツとヴィシエグラード諸国との生産ネットワークとして自動車を中心に続けられていることを示すものである。生産ネットワークについては、さらに直接投資との関係で検討しなければならない。

第3章 ドイツのヴィシエグラード諸国への直接投資と生産ネットワーク

1. ドイツのヴィシエグラード諸国への直接投資

ドイツのヴィシエグラード諸国向けの直接投資が急速に増加したのは2000年代に入ってからであった。これはヴィシエグラード諸国の1990年代の市場経済への移行が一段落したことや、EUへの加盟がほぼ確実になり、2004年に加盟が実現したことがその要因と考えられる。第6表のように、ドイツの対ヴィシエグラード諸国向け直接投資(残高)は、2010年の660億ユーロから2016年には840億ユーロへ200億ユーロ程増加しているが、ドイツの対外直接投資総額に占めるヴィシエグラード諸国の割合は、同期間8%から7.5%へ低下している。この構成比の低下は、ドイツの対アメリカと対中国投資が急速に拡大したことの影響を受けたものと考えられるが、このヴィシエグラード諸国の7.5%の割合は、中国の比重6.8%を上回っているのである。ヴィシエグラード諸国のなかではポーランドが最大で、293億ユーロ、

第6表 ドイツの対ヴィシエグラード諸国直接投資

	2010	2016	2010	2016
	10億ユーロ		%	
ポーランド	21.6	29.3	2.6	2.6
チェコ	20.6	29.0	2.5	2.6
スロバキア	8.0	7.4	1.0	0.7
ハンガリー	16.0	18.1	1.9	1.6
V4	66.2	83.8	8.0	7.5

注) 構成比は、ドイツの対外直接投資総額に対する比率

出所) Deutsche Bundesbank, *Foreign direct investment stock statistics* 2012 & 2018.

第7表 在ヴィシエグラード諸国ドイツ系子会社の数、雇用数、売上高（2016年）

	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー	V4	対全子会社比
在V4子会社数	1,323	968	403	754	3,448	9.2
在V4雇用数(1000人)	366	331	132	197	1,026	14.1
子会社売上高(10億ユーロ)	75.2	77.8	28.6	45.6	227.2	8.1

注) 全子会社比は、ドイツ系在外子会社全体に対する割合(%)

出所) Deutsche Bundesbank, *Foreign direct investment stock statistics* 2018.

これにほぼ同規模のチェコが続く。この両国のドイツの全投資額に占める割合は2.6%である。

この直接投資によってドイツ系企業がヴィシエグラード諸国に所有する在外子会社数は、第7表のように3,448社で、ドイツ系企業が全世界に保有する子会社総数の9%に相当する。また、これら子会社のヴィシエグラード諸国での雇用数は103万人で、これはドイツ系企業が海外で雇用している総数の14%、またヴィシエグラード諸国の子会社売上高は2,270億ユーロで、海外子会社全体の売上高の8%に相当する。ドイツ系在ヴィシエグラード諸国子会社一社当たり雇用数298人に対して、ドイツ系海外子会社一社当たりの雇用数は194人であるから、在ヴィシエグラード諸国子会社は他地域の子会社に比べて比較的労働集約的な性格が強いことがわかる。また売上高を比較しても、在ヴィシエグラード諸国子会社一社当たり売上高が約6,600万ユー

第8表 ドイツの対ヴィシエグラード諸国直接投資の産業別構成 (2016年)

	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー	V4	ポーランド	チェコ	スロバキア	ハンガリー	V4
	10億ユーロ					%				
製造業	11.40	13.31	3.69	10.01	38.40	38.9	45.9	49.6	55.3	45.8
化学品	0.65	0.31	0.04	0.25	1.25	2.2	1.1	0.6	1.4	1.5
製薬品	0.13	0.16	0.00	0.00	0.28	0.4	0.5	0.0	0.0	0.3
精密・医療機器	0.18	0.06	0.06	0.41	0.70	0.6	0.2	0.7	2.2	0.8
電機	0.36	0.42	0.30	0.38	1.45	1.2	1.5	4.0	2.1	1.7
一般機械	0.76	0.74	0.26	0.53	2.28	2.6	2.5	3.5	2.9	2.7
自動車・部品	2.91	7.14	1.85	6.81	18.71	9.9	24.6	24.9	37.6	22.3
エネルギー供給	1.01	2.77	0.04	2.10	5.92	3.4	9.5	0.5	11.6	7.1
商業・自動車修理	5.05	3.42	1.06	1.82	11.35	17.2	11.8	14.3	10.1	13.5
情報・通信	2.93	1.19	1.13	1.74	6.99	10.0	4.1	15.2	9.6	8.3
金融・保険業	5.32	5.30	0.75	0.56	11.93	18.1	18.3	10.1	3.1	14.2
ビジネスサービス	-	0.02	-	0.11	0.13	-	0.1	-	0.6	0.2
その他サービス	0.33	1.05	0.06	0.08	1.51	1.1	3.6	0.8	0.4	1.8
全産業	29.30	29.00	7.43	18.10	83.83	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出所) Deutsche Bundesbank, *Foreign direct investment stock statistics* 2018.

ロに対して全子会社平均では約7,500万ユーロであり、売上高で見た子会社規模は相対的に小さいといえる。ヴィシエグラード諸国のそれぞれの国をみておくと、子会社数が多いのはポーランドであるが、在ポーランド子会社一社当たりの雇用数や売上高規模は、チェコやスロバキアの子会社よりも小さい。ハンガリーの子会社数はポーランド、チェコに次いでいるが、子会社一社当たりの雇用数や売上高規模は、ポーランドの子会社に近く、相対的に労働集約的で売上高規模は小さいといえる⁽¹¹⁾。

ドイツの対ヴィシエグラード直接投資の産業別構成をみていこう。第8表のようにドイツの投資の46%は製造業に向けられているが、その約半分は自動車産業が占める。製造業以外では商業と金融・保険業が大きな比重を占め、自動車、商業、金融・保険業の3産業で全体の半分を占めており、ドイツの対ヴィシエグラード直接投資は、この3部門へ集中していることがわかる。さらにヴィシエグラード諸国のうちでは、ハンガリーが製造業の比重が高く

55%で、しかもこのうち自動車が38%を占め、ハンガリーでは自動車への集中度が極めて高く、金融・保険業の比重は大きくない。チェコでも同様に自動車が25%を占め、これに商業、金融・保険業の3業種で55%になる。スロバキアもチェコと同様の構成であるが、ここでは情報・通信部門の比重が高いのが特徴である。ポーランドは、自動車が他のヴィシエグラード諸国ほど高くないため、製造業への投資が約4割にとどまり、商業、金融・保険業、さらに情報・通信部門の第3次産業の比重が大きいという違いがある。ポーランドで自動車産業への投資が比較的小さいのは、他のヴィシエグラード諸国に比べて工業化が相対的に遅れていたことにもよるが、最近になって外国企業の自動車産業への投資は急速に増加している。以上のようにドイツの対ヴィシエグラード直接投資では、製造業では自動車へ投資が集中していることやサービス業ではハンガリーを除いて金融・保険業へ投資が集中していることが共通している。

それでは、ヴィシエグラード諸国への外国直接投資のなかでドイツはどの程度のウェイトを占めているのかについて考えてみよう。2014年のヴィシエグラード4カ国における外国直接投資残高においてドイツのウェイトが最も高いのはハンガリーの23%で、これに次ぐのがポーランドの16%とチェコの13%で、スロバキアが最も低く6.7%であった。各国におけるドイツのこのウェイトの大きさは、ハンガリーでは第1位であるが、ポーランドでは第2位、チェコでは第3位、スロバキアでは第5位であった⁽¹²⁾。2016年のヴィシエグラード諸国における最大の直接投資国はオランダで、ヴィシエグラード4カ国全体の約4分の1を占めた。ドイツは第2位で、15%足らず。第3位がルクセンブルクであった。またヴィシエグラード諸国向けの外国直接投資の85%以上がEU企業による投資であった。ただしオランダとルクセンブルクはヨーロッパで主要な金融オフショア市場であり、必ずしも実際の投資国とはいえない。例えばルクセンブルクの投資額が多いのは、このな

かにルクセンブルクにおけるフォルクスワーゲンの金融子会社として Skoda Auto AS が含まれており、この元々の投資企業はドイツのフォルクスワーゲンである⁽¹³⁾。

ちなみに、ドイツと国境を接して経済的關係も大きいチェコにおける外国直接投資(2016年残高)の産業別の構成では、サービス業の比重が増加し60%に達している。このうちで金融・保険業が27%を占めている。これに次ぐのが商業の10%、そして自動車の8%であった。チェコの金融サービス部門への投資の多くはオーストリア、フランス、ベルギーからであり、ドイツとオランダは商業への最大の投資国であった。また自動車への直接投資の半分以上はルクセンブルクからの投資であったが、これには既述のように Skoda の投資が含まれており、本来の投資国であるドイツの影響が非常に大きいことがわかる。他の3カ国では、ハンガリーで金融・保険業の比重が比較的小さい以外は、自動車、金融サービス、商業の3部門が外国投資の中心であったことはチェコと共通している⁽¹⁴⁾。ヴィシエグラード諸国における外国直接投資の産業構成とドイツのヴィシエグラード諸国向け直接投資を比較すれば、ドイツの投資は明らかに製造業の比重が高く、とりわけ自動車に大きな重点があることがわかるのである。

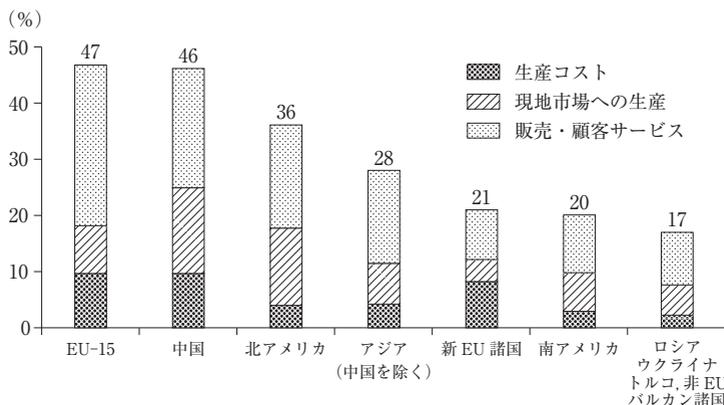
ここで、ドイツ自動車産業のヴィシエグラード諸国への進出状況を概観しておこう。ドイツの主要自動車企業は、1990年代の中頃以降にポーランド南西部、ハンガリー北部とチェコおよびスロバキアで自動車の部品調達網を形成するようになった。フォルクスワーゲンは、1991年にチェコの最大自動車企業 Skoda の31%の株式を買収して、東方進出を開始した。その後同社は、Skoda への投資を拡大し、チェコの Mlada Boleslav に新工場を建設し、Skoda の生産工程を近代化した。また1999年には、エンジン部品を生産するためにポーランドのボルコヴィツェの Motor Polska 工場に投資をして規模の拡大を図った。ここでは後にフォルクスワーゲン・パサート車の部品生産が始

まった。さらにフォルクスワーゲンは、ハンガリーの Gyor に高級車アウディ向けのエンジン生産のための、そしてスロバキアのブラチスラバにポルシェの SUV カイエンの車体生産のためのそれぞれの新工場を建設した。アウディのハンガリーの子会社はハンガリーで最大の輸出企業であるとともに 4 気筒、6 気筒、および 8 気筒エンジンの生産ではヨーロッパ最大の企業になった⁽¹⁵⁾。

ヴィシエグラード諸国へ進出したのはドイツ企業だけではない。フィアット、プジョー、や韓国の現代自動車も自動車の現地生産をしているが、このなかでもドイツ企業はとりわけ企業内供給ネットワークの形成に成功を収めてきた。その理由は、有形財の部品供給のネットワークには輸送コストが伴うが、ドイツの自動車産業の中心であるシュツットガルトやミュンヘンまたベルリンは、ヨーロッパの他地域に比べてヴィシエグラード諸国の部品供給業者に地理的に近いからである⁽¹⁶⁾。

ドイツ企業の対外直接投資の動機に関する調査を示したのが、第 2 図である。この図では、ドイツ企業が直接投資する際の地域別の選好度とその選好の内容について示されている。またこの図では、ヴィシエグラード諸国は新 EU 加盟国に含まれている。この調査では新 EU 加盟国は、投資先としては 5 番目に選好される地域となっている。これは、経済規模や人口規模を考えれば当然といえるが、EU 主要国や北アメリカ、中国に次いで中東欧はドイツにとって重要な投資先であることを示している。さらにそれぞれの地域でのドイツ企業の投資動機をみると、EU-15、中国、北アメリカでは「販売と顧客サービス」が、大きなウェイトを占めているのに対して、新 EU 加盟国では現地での「販売と顧客サービス」(42%) と併せて「生産コストの削減」(39%) が相対的に大きいこと、また「現地市場向けの現地生産」の割合が小さいのが特徴である。1990 年の中東欧の労働者賃金は、ドイツ人労働者の 10% 程度に過ぎなかったし、2010 年でもドイツの製造業平均賃金は時給 44

第2図 ドイツ企業による投資の地域別選好度と投資動機 (2014年)



出所) Poplawski, K., *The Role of Central Europe in the German Economy: The Political Consequences*, Center for Eastern Studies 2016, Figure 17.

ドルに対しヴィシェグラード諸国では時給 8 ドルから 12 ドルであり、ドイツの 4 分の 1 程であった。このようにドイツ企業の中東欧への直接投資は、安い労働力を利用することに重点が置かれていることは明らかである。このうえに中東欧では労働市場における規制が緩やかで、雇用や解雇を比較的容易に行なうことができた。この一方で、中東欧諸国の労働者は、社会主義体制の下で職業訓練制度が整えられていたため、その遺産によって職業訓練を受けた労働者が多く、労働の質は高かった⁽¹⁷⁾。

2. ドイツとヴィシェグラード諸国との生産ネットワーク

中国と中東欧諸国は、労働コストが安いという点では共通しているが、ドイツにとって中東欧諸国は、地理的にまた文化的にも近いことが、ドイツ企業が中国とは異なる経営戦略を中東欧諸国に対してとってきた大きな要因といえる。中東欧はドイツ企業にとってその国際競争力を確保するために本国と密接な生産ネットワークを形成することが重要であったといえる。ドイツ

第9表 ドイツとヴィシエグラード諸国（V4）の中間財輸出

	1996		2011	
	V4	ドイツ	V4	ドイツ
総輸出	30.1	24.3	52.8	47.7
V4		1.4		4.5
ドイツ	8.4		16.6	
最終財	21.4	17.8	38.9	35.0
V4		0.9		2.8
ドイツ	6.0		11.2	
中間財	8.7	6.5	13.9	12.3
V4		0.5		1.6
ドイツ	2.4		5.4	
世界 GDP に対する比率	0.9	8.0	1.4	5.1

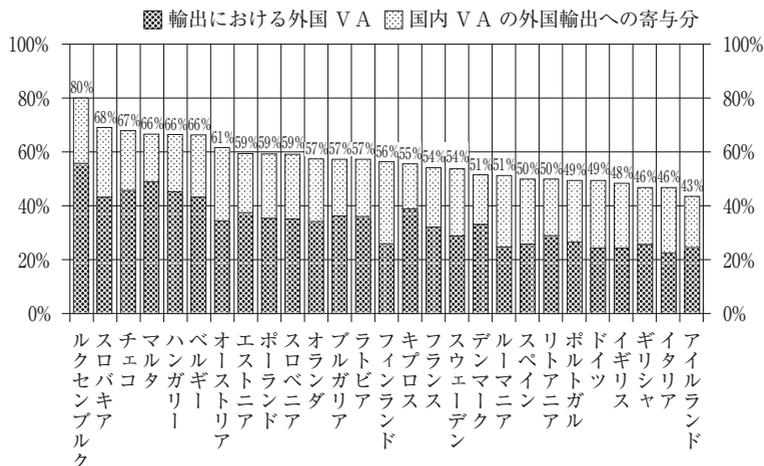
注) 全て名目 GDP に対する比率 (%)

出所) *IMF Working Paper*, WP/13/210, 2013.

とヴィシエグラード諸国との貿易が近年急速に増加してきたことは、第2章で考察した。このドイツとヴィシエグラード諸国との貿易の特徴の一つは、中間財取引の増加である。1996 - 2011年間のドイツとヴィシエグラード諸国の輸出の対GDP比を示した第9表によると、ドイツの対ヴィシエグラード諸国輸出はこの間1.4%から4.5%へ拡大しているのに対して、ヴィシエグラード諸国の対ドイツ輸出は8.4%から16.6%へと大きく増大している。このうち中間財は、ドイツのヴィシエグラード諸国向け輸出では、0.5%から1.6%へ増加したのに対して、ヴィシエグラード諸国の対ドイツ輸出では2.4%から5.4%へと拡大している。このドイツとヴィシエグラード諸国との中間財取引の増大は、ヴィシエグラード諸国からのドイツへの輸出は単にドイツの最終需要になるのではなく、両地域間の生産ネットワークの一翼を担っていることを意味する⁽¹⁸⁾。

この点をさらに分析しようとしたのがFIWの調査研究である。FIWの研究は、世界価値連鎖(global value chain)の研究を使用して、ある国の輸出における外国付加価値とその国の付加価値のうち外国の輸出に寄与した部分の

第3図 製造業輸出における外国付加価値と国内付加価値の外国の製造業輸出への寄与分（製造業総輸出に対する比率，2011年）



注) VA は付加価値

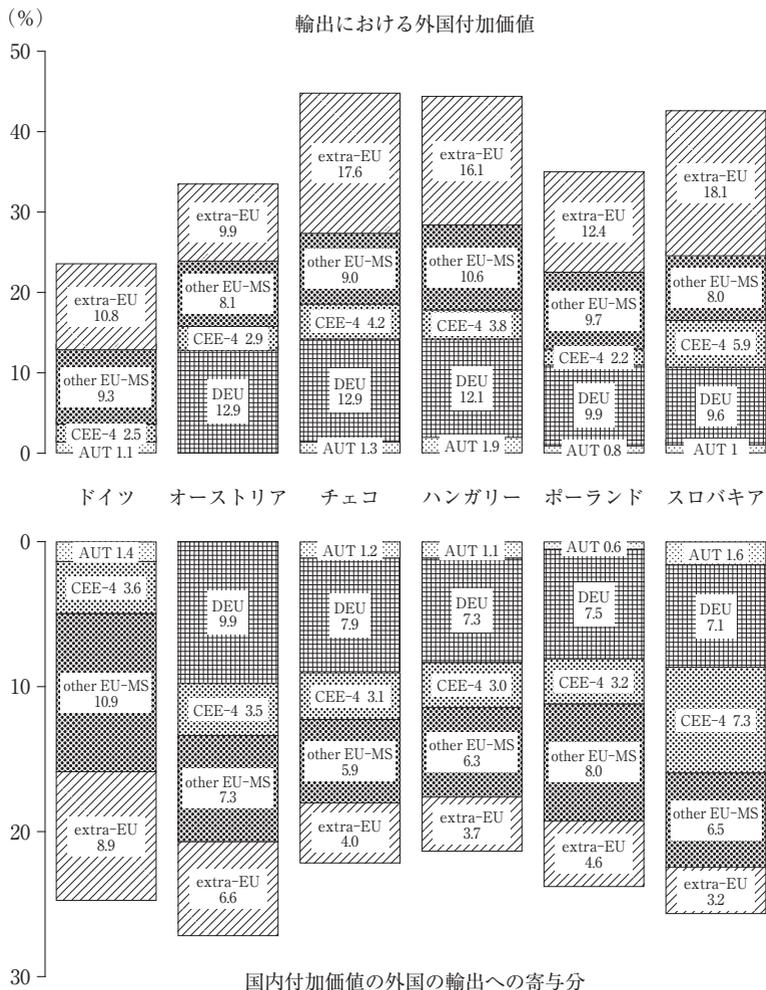
出所) *FIW-Research Reports* 2014/15 N 02, 2015, Figure 5.2.

合計をその国の総輸出で割った数値を、世界価値連鎖への寄与の大きさの指標としている。この数値を EU 27 カ国について示したのが、第3図である。これによると、スロバキア 68%、チェコ 67%、ハンガリー 66%、ポーランド 59%と、ヴィシエグラード諸国の総輸出のうちの世界価値連鎖への寄与分は、EU 諸国のなかでも上位に位置する。これに比べてドイツのこの値は小さいが、この一つの理由は経済規模の大きさにあるが、ヴィシエグラード諸国のこの値が大きいことは、これら諸国が国際的な生産ネットワークにより統合されていることを示すものといえるのである。また世界価値連鎖への寄与率のうちヴィシエグラード諸国が大きいのは、輸出のうちの外国付加価値の率であり、国内付加価値の外国の輸出への寄与分の比率では、25%程度のドイツとヴィシエグラード諸国では大きな違いはない。これからわかることは、ヴィシエグラード諸国は、他国から輸入した投入財（中間財）の再加工や組

み立てにより多く関与し、ドイツは、再加工や再輸出のための投入財（中間財）の輸出により大きく関係していることである⁽¹⁹⁾。

FIWの研究は、さらにドイツ、オーストリアとヴィシエグラード4カ国それぞれの輸出のうちの外国付加価値と国内付加価値の外国の輸出への寄与分の地域別の内訳を明らかにしている。これを示したのが第4図である。2011年のドイツの輸出に占める外国付加価値は約24%で、このうちヴィシエグラード4カ国は2.5%であった。またドイツの国内付加価値の外国輸出への寄与分は約25%で、このうちヴィシエグラード4カ国は3.6%であり、どちらもドイツの輸出に占めるヴィシエグラード4カ国の比率は、それぞれ10%と14%程度で比較的小さい。これに対してヴィシエグラード4カ国の輸出に占める外国付加価値のうちのドイツの付加価値は、チェコの12.9%からスロバキアの9.6%であり、外国付加価値のうちドイツの割合はチェコで約3割、スロバキアでも23%である。またヴィシエグラード4カ国の国内付加価値の外国輸出への寄与分のうちのドイツへの寄与分でも、チェコの7.9%からスロバキアの7.1%であり、外国輸出寄与分に占めるドイツの割合は、チェコで36%、ハンガリーで34%、スロバキアでも28%であり、ヴィシエグラード諸国の貿易に対するドイツの影響力は決定的である。すなわちヴィシエグラード諸国はドイツから多くの中間財を輸入しそれを加工して輸出しており、しかもその輸出先として多くの比重を占めるのはドイツであり、しかもヴィシエグラード諸国からのドイツへの輸出品はドイツの輸出に大きく寄与しているのである。FIWの研究はドイツとヴィシエグラード諸国との関係を以下のように結論づけている。ドイツは、その経済規模や企業の技術的な優位性によって中東欧製造業のセンターとなっている。これは、ドイツが中東欧の製造業輸出における外国付加価値の主要な源泉になっているからであり、また中東欧諸国から生み出された製造業付加価値が外国輸出に寄与したなかで最も大きく寄与した国がドイツであったからである⁽²⁰⁾。

第4図 製造業輸出における外国付加価値と国内付加価値の外国の製造業輸出への寄与分の地域別内訳（製造業総輸出に対する比率，2011年）



注) DEU：ドイツ，AUT：オーストリア，CEE：ヴィシエグラド4カ国，
 other EU-MS：その他 EU，extra-EU：EU 域外
 出所) *FIW-Research Reports* 2014/15 N 02, 2015, Figure 5.3.

む す び

ドイツと中東欧諸国との密接な経済関係の形成は、19世紀末まで遡る。また第2次大戦前には、ドイツを中心に中東欧諸国とマルク経済圏が形成されていた。しかし、第2次世界大戦によるドイツの敗北と、その後の東西冷戦の激化によってドイツ（当時西ドイツ）と中東欧との関係は、ほとんど断ち切られることになった。戦後、ドイツと中東欧諸国の関係が再び復活する契機になったのは、1970年代のブランド政権による東方政策からである。ソ連を始めとする旧東欧諸国との関係改善によって、ドイツからの東欧諸国への投資や技術協力などが進み、経済関係が徐々に深まっていった。ドイツと中東欧諸国との関係に決定的な変化をもたらしたのは、1980年代末からの東側体制の崩壊と、東欧諸国の社会主義経済から市場経済への移行であった。これによって、ドイツの中東欧諸国への投資と貿易関係の拡大が急速に進んでいった。この過程でドイツが、中東欧諸国の安い労働力を利用しながら、自らの生産分業のなかに中東欧諸国を組み入れていくきっかけとなったのがEUのOPT制度の中東欧への拡大であった。このOPTの活用においてドイツは圧倒的な影響力を行使した。ドイツと中東欧諸国との関係は、中東欧諸国がEUに加盟することによって、直接投資による現地生産と企業内貿易にその関係は移っていった。

ドイツの貿易においてヴィシエグラード諸国との取引は、輸出で11%、輸入で13%程度占めるが、近年そのウェイトは徐々に大きくなってきている。他方でヴィシエグラード諸国にとってドイツの大きさは圧倒的で、ヴィシエグラード各国ともドイツが最大の貿易相手になっている。またヴィシエグラード諸国との貿易の品目構成では、自動車、電気・電子機器、一般機械の3品目が、輸出、輸入とも大きな比重を占めている。3品目のなかでも特に自動車のウェイトが大きく、ドイツはヴィシエグラード諸国に大量の自動車

製品を輸出するとともに、それ以上の自動車製品を輸入しており、ドイツとヴィシエグラーデ諸国の間で自動車産業における生産分業が進んでいることを示している。この関係は電気・電子機器や一般機械においてもみられる。

また自動車産業の重要性は、直接投資でも示されている。ドイツの対ヴィシエグラーデ諸国直接投資では、商業や金融・保険などのサービス業が増えているが、製造業では自動車を中心であり、直接投資を通じて現地での自動車関連製品の生産が進んでいることがわかる。ドイツ企業による直接投資の主要な動機は、ヴィシエグラーデ諸国の安い労働力を利用することであるが、それにとどまらずドイツとヴィシエグラーデ諸国は地理的に近接しているために製造品などの物的製品の取引は他地域に比べて輸送コストが安く、また地理的に近接していることは文化的にも近く、現地での販売や顧客サービスを有利に進めることができる。

ドイツ企業がヴィシエグラーデ諸国と密接な生産ネットワークを形成していることは、ヴィシエグラーデ諸国が世界付加価値連鎖に大きく関わっていることに現れている。ヴィシエグラーデ諸国の輸出における外国付加価値におけるドイツの大きさやヴィシエグラーデ諸国の国内付加価値が外国の輸出に寄与している部分のなかでドイツの役割が決定的に大きいことは、ヴィシエグラーデ諸国が多く製品をドイツから再加工や組み立てのために輸入し、再びその多くをドイツに再輸出するという役割を担っていることを示している。ドイツはその経済規模や工業力によって中東欧諸国の製造業のセンターの役割を持ち、また直接投資による垂直的な企業内分業を内容とする生産ネットワークにヴィシエグラーデ諸国を組み込んでいるといえる。こうした生産ネットワークの形成は、ドイツ産業の国際競争力の強さを支える要因のひとつになっていることは明らかである。

このヴィシエグラーデ諸国とドイツとの関係は、ドイツの経済規模とその技術力の高さなどによって従属的關係のようにみえるが、この関係が固定的であるかどうかについては今後の状況をみていくほかない。

注

- (1) Dustmann, C., *et al*, “From Sick Man of Europe to Economic Superstar: Germany's Resurgent Economy”, *Journal of Economic Perspectives*, Vol. 28, No. 1, 2014, pp. 167-168.
- (2) 「ハルツ改革」については、拙稿「ドイツの雇用問題と「ハルツ改革」」『福岡大学商学論叢』54巻2・3・4号, 2010を参照。
- (3) ヴィシエグラード諸国とは, 1991年にポーランド, チェコ, スロバキア, ハンガリーの4カ国がハンガリーのヴィシエグラードで会合し, EU加盟に向けて共通政策について合意したことを契機にして同一歩調をとることが多いために, このように呼ばれる。
- (4) Gross, S., “The German Economy and East-Central Europe”, *German Politics and Society*, Vol.31, No.3, 2013, pp.86-87.
- (5) Gross, S., *op. cit.*, pp.88-89.
- (6) Gross, S., *op. cit.*, pp.89-92.
- (7) Pellegrin, J., “German production networks in Central, Eastern Europe: between dependency and globalization”, *WZB Discussion Paper*, No.FSI 99-304, Wissenschaftszentrum Berlin für Sozialforschung 1999, p.4-7.
- (8) Pellegrin, J., *op. cit.*, p.8.
- (9) Pellegrin, J., *op. cit.*, p.12 & 16.
- (10) Popławski, K., *The Role of Central Europe in the German Economy: The Political Consequences*, Center for Eastern Studies 2016, p.27.
- (11) Deutsche Bundesbank, *Foreign Direct Investment Stock Statistics 2018*.
- (12) Farkas, B., *Economic and Political Relations between Germany and Visegrad Countries in Turbulent Times*, Paper presented at ECPR General Conference, Charles University in Prague, 2016, p.7.
- (13) Szabo, S., *FDI in the Czech Republic: A Visegrad Comparison*, *European Economy*, Economic Brief 042, 2019, p.3.
- (14) Szabo, S., *op. cit.*, p.4.
- (15) Gross, S., *op. cit.*, p.94.
- (16) Gross, S., *op. cit.*, pp.92-93.
- (17) Gross, S., *op. cit.*, pp.92.
- (18) Elekdag, S. & D. Muir, “Trade Linkages, Balance Sheets, and Spillovers: The Germany-Central European Supply Chain”, *IMF Working Paper*, WP/13/210, 2013, p.8.
- (19) Stehrer, R. & R. Stöllinger, “The Central European Manufacturing Core: What is Driving Regional Production Sharing?”, *FIW-Research Reports 2014/15 N 02*, 2015, p. 20. なお, ドイツの国際生産と世界付加価値連鎖については, 拙稿「生産の国際化とドイツの国際分業構造」『福岡大学商学論叢』63巻1・2号, 2019を参照。
- (20) Stehrer, R. & R. Stöllinger, *op. cit.*, p.22.